

## Y-2:非営利団体セッション

# EURAXESS

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 10:30-12:00 新C403(4階)

## ホライズン2020プログラムを用いた 日欧共同研究プロジェクト: ケーススタディー

所属研究機関の国際プロフィールを上げるため、URAには何が出来るか? 国際共同研究や研究者交流の可能性を最大に広げるための知識が必要と思われます。又、その知識や常識をうまく研究者や学生に伝えることも大事だと思われます。過去の大会でのセッションの経験を振り替えて、今回のセッションは実際のプロジェクトに参加した日本の研究者の経験フィードバックを提供します:

・国際博士課程プログラムMSCA・ITNプロジェクトGEM-STONES(早稲田大学)・国際研究者交流プログラムMSCA・RISEプロジェクトJENNIFER&JENNIFER2(高エネルギー加速器研究機構)・国際共同研究プログラムH2020プロジェクトVISION(東京大学)

## オーガナイザー

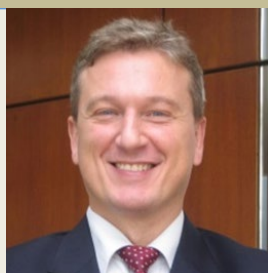
### Matthieu PY: EURAXESS Japan Coordinator



08年仏ENSPG(現PHELMA)と京大で材料工学修士。11年仏原子力庁・電子情報技術研究所で博士取得。京大でポスドク後、在日仏大使館科学技術部、14年から欧州委員会プロジェクトEURAXESSの日本室長(coordinator)、18年から日本&韓国室長。

## 講演者

### Gediminas Ramanauskas: Delegation of the EU to Japan Head & First Counsellor, Science, Innovation, Digital, and Other EU Policies Section



リトアニア出身。2007年に欧州委員会でのキャリアがスタート。2007年から2009年まで、事務総局の業務改革推進を担当する部署に勤務。2009年、環境総局に移り、「気候変動」分野での国際交渉を担い、EUの行動を監視する部署に所属。2012年、研究・イノベーション総局国際協力局にて、イスラエル・東方パートナー諸国・黒海地域・アフリカ・ロシア・中央および南アジア地域との科学技術協力分野における、EU政策の策定・実施・監視を担う仕事に携わる。2018年9月より現職。

## 講演者

**Tom Kuczynski: Delegation of the EU to Japan  
S&T Advisor,  
Science, Innovation, Digital, and Other EU Policies Section**



ポーランド出身。経済学博士(広島修道大学)。2006年より2012年まで在日ポーランド大使館一等書記官として科学、工学、イノベーション、エネルギー、気候変動問題を担当。2012年から駐日EU代表部にて科学技術部のアドバイザーとして日EU間での連携研究を担当している。

**鈴木真二: 東京大学  
未来ビジョン研究センター 特任教授**



1979年、東京大学修士課程修了後、(株)豊田中央研究所を経て、1986年に工学博士取得後、東京大学助教授。1996年より工学系研究科航空宇宙工学専攻教授となり、2019年同職を定年退職後、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授。専門は、航空工学。現在、ICAS(国際航空科学連盟)会長。

**宇野 彰二: 高エネルギー加速器研究機構  
素粒子原子核研究所 副所長・教授**



大学院時代からつくば市にある高エネルギー加速器研究機構に設置されている大型の電子・陽電子衝突型加速器を用いて物質の究極の構成要素である素粒子を実験的に解明する研究を行ってきた。特に、物質と反物質とで違う物理現象を見つけ出すことによって、素粒子物理学の標準理論を超える理論の構築に向けてのヒントを得ようとしている。また、実験に用いられるガス放射線検出器の専門家でもある。

**山田 尚道: 日欧産業協力センター  
Horizon2020 ナショナルコンタクトポイント  
室長**



1978年慶應義塾大学工学部卒業。精密機器メーカーに勤務し欧州を中心に海外事業に従事。2016年より日欧産業協力センターの科学・技術・イノベーションマネージャーに就任。あわせて、ホライズン2020の日本におけるナショナルコンタクトポイントに任命され、大学、国立研究所、及び企業の研究者達の欧州との科学技術分野における共同研究の橋渡し業務に従事。